

# LMSを活用した学習習慣の確立をめざした取組

## —知識の習得に特化した教材による繰り返し学習を通して—

長期研究員 齋藤 亮

### I 研究の趣旨

知識を習得させるためには、授業だけでなく授業外の学習も大切である。近頃は、授業外の場面で長時間学習する生徒と全くしない生徒に二極化する傾向が見られる。全く学習しない生徒が授業外の場面で学習するように、学習習慣を確立させることが必要である。

本研究は、知識の習得に特化したLMS（Learning Management System：学習管理システム）を生徒に活用させ、達成感を感じさせることができれば、学習習慣を身に付けさせられることを行動面・意識面から明らかにする。

### II 研究の概要

#### 1 研究仮説

授業外の学習する場面において、以下の手だてを講じれば、生徒は達成感を感じ、繰り返し学習するようになり、学習習慣が身に付くだろう。

【手だて1】 生徒が短時間でも取り組めるLMSや教材の作成

【手だて2】 生徒の使用する場面を想定したLMSの活用指導

#### 2 研究の内容と実際

##### (1) LMSや教材の作成【手だて1】

###### ① 本研究で構築するLMSや教材のコンセプト

###### A 学習に取り掛かる抵抗感を軽減する

いつでも、どこでも学習できるように、インターネットに公開されたWebサイトで利用できるLMSを構築する。インターネット環境とブラウザがあれば、様々な情報端末で利用することができる。また、短時間で問題が解けるように、次の点に配慮する。

- 1回分の解答時間は3分程度
- 1回分の問題数は10問程度
- 択一問題
- 知識の習得に特化した内容

###### イ 達成感や自信を持たせる

学習習慣が身に付いていない生徒は、授業外の場面で学習をしても、自分の理解の度合や取組程度を把握できないことが多い。そのため、問題を解いた努力の積み重ねが実感しにくいことが障害の一つとなり、授業外の学習習慣が確立しないと考えられる。

そこで、問題を解いた努力の積み重ねが一目で実感できるよう、生徒自身が学習履歴を確認できるようにする。学習履歴を見ることで学習に対する自信を持ったり、達成感を覚えたりすることで、繰り返し学習する意欲の向上をめざす。

###### ② LMSの構築

コンセプトに沿ったLMSを構築するために、適切なソフトウェアを検討した。その結果、次の理由によりNetCommonsを採用し、LMSを構築した。

- 国立情報学研究所により開発された情報共有基盤システムで信頼性が高く、無料で利用できる。
- ブラウザだけで簡単にサイトの更新ができ、コンセプトに沿ったLMSが、容易に構築できる。
- FKS（ふくしま教育総合ネットワーク）でNetCommonsによるWebサイトが開設できる。

###### (2) LMSの活用指導【手だて2】

###### ① 朝学習との連携を図った活用

研究協力校では、これまでの就職試験結果の分析などから、生徒の基礎学力定着に課題あった。その対策として、昨年度より全校一斉に朝学習の時間（SHR後の10分間）を設定し、基礎学力の向上に向けた取組を始めた。今年度は、市販の学習プリントを活用し、英語・国語・算数（数学）の学習を行っている。

そこで、朝学習の取組と連携し、朝学習の復習としてLMSを活用させることにより、学習習慣の確立をめざした。まず、LMS用に、朝学習のプリントと同程度の問題を765問作成し登録した。その後、対象生徒に対しLMSの活用方法などについて指導を

行った。指導内容については、次のとおりである。

○ LMSの操作方法について

・ログイン方法 ・問題の解き方 ・学習履歴の見方 ・パスワードの変更の仕方

○ 携帯電話の利用マナーについて

○ 「社会人基礎力」について

・生徒自身に学習の必要性を理解させる

○ ログインIDカードの作成，配付

○ 活用を促すリーフレットの作成，配布，掲示

② 教科指導での活用

朝学習との連携を図った活用を踏まえ，教科「商業」の科目「情報ビジネス」で活用を行った。この科目では，指導の一環として，全国商業高等学校協会主催情報処理検定の受験を奨励している。在学中の学習成果を表すものとして進路で活用できるため，検定の取得を学校生活の目標としている生徒も多い。生徒が意欲的に学習する分野と言える。

そこで，検定試験の出題範囲である459語について問題を作成しLMSへ登録した。その後，対象生徒にLMSの活用方法を指導し，朝学習でLMSを活用した生徒の体験談も紹介した。

(3) 考察

学習時間調査やLMSの学習履歴分析，生徒アンケートから，次のことが明らかになった。

① 朝学習との連携を図った活用における考察

○ LMS導入前後における平均学習時間の変化が，生徒全体では横ばいだったのに対し，LMSを活用した生徒の平均学習時間は9%増加した。

○ 20時から22時にLMSの活用が多かった。

また，生徒アンケートには「テスト前に使ったが，頭に入るのでとてもよい」など，LMS活用者からの肯定的な記述が多く見られた。以上のことからLMSを活用した22.4%の生徒においては，学習時間の増加や帰宅後にLMSを活用するなど，学習習慣の確立につながる行動や意識の変容が見られた。

しかし，LMSを活用しなかった大半の生徒に，学習習慣を身に付けさせることができなかった。LMSを活用する生徒を増やすには，生徒が意欲的に学習する分野の教材開発が必要である。

② 教科指導での活用における考察

○ LMSを活用した生徒が66.7%と，朝学習に比べて多くの生徒がLMSを活用した。

○ LMS導入前には学習時間が短かった生徒が，LMSの活用をきっかけとして学習時間が増加した。それに対して，LMSを活用しなかった生徒は学習時間がほぼ横ばいだった（図1）。

○ LMS導入前，学習しなかった生徒の5人中4人が，LMS導入後に学習するようになった。

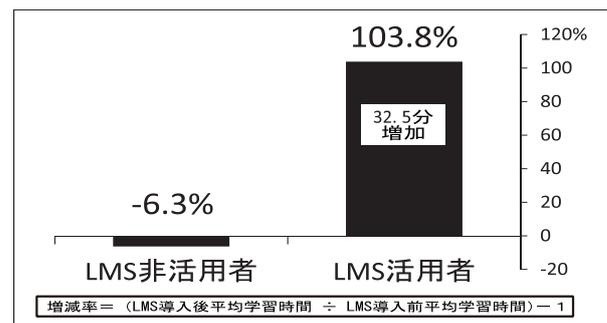


図1 休日の平均学習時間 増減率

また，生徒アンケートには「自分の弱点が分かって，弱点をよく勉強できるので，とてもよいです」「手軽にできるのがとても便利だと思います」などLMSの活用や授業外の学習について，肯定的な記述が多く見られた。以上のことから，LMSの活用による，授業外の学習時間が増加するなどの行動面の変容や，自分の学習を振り返ることで達成感を覚える意識面の変容を確認することができた。

### Ⅲ 研究のまとめ

#### 1 研究の成果

授業外に学習をしなかった生徒が学習するようになるなど，本研究で構築したLMSの活用は，学習のきっかけになることが明らかになった。さらに，知識の習得に特化したLMSを生徒に活用させ，達成感を覚えさせることで，繰り返し学習するようになり，学習習慣が身に付くことが，行動面・意識面から明らかになった。また，NetCommonsを活用することでLMSを簡単に構築できることが明らかになった。

#### 2 今後の課題

授業外の場面に学習する習慣を確立させるためには，生徒の実態に応じたLMSを計画的に準備し，それを活用させるための適切な指導が必要である。